

#16 キッズも高校生も教えられるコーチの秘密

こんにちは、
ジュニアサッカー大学、講師のカズです。

「自分らしい指導の軸づくり」4回シリーズの最終回です。ここまで真似から始まり、本質を理解し、実践検証を重ねてきました。今日は複数のスタイルを統合して、本当の意味での「自分らしさ」を作る方法について話します。

日本だと結構ジュニアならジュニア年代だけを指導しているケースが多いですが、僕の場合はキッズから小学生、中学生、そして高校生まで指導する機会がありました。特に高校生年代では、スペイン人コーチと一緒に日本のクラブを指導した経験もあります。この幅広い経験が、僕の指導力を大きく変えてくれたんです。

====

なぜ違うカテゴリーの指導経験が重要なのか？それは、選手の年齢や理解度によって自分の指導を調整しないとイケないからです。これがめちゃくちゃ勉強になるんですよね。

皆さんも経験ありませんか？いつものジュニア年代への説明を、そのまま幼児にできてしまって全然伝わらなかったこと…僕は昔よくやりました笑

もしジュニア年代の指導だけやっているとあれば、短期間でもいいんでジュニアユース年代の指導にも少し携わってみる、逆に幼児年代のサッカースクールを少し手伝ってみる。こういった経験をしてほしいんです。

指導の幅を広げるプロセスは以下ようになります。①観察力：子どもたちの年齢、性格、その日のコンディションを読む ②選択力：状況に応じて最適な指導スタイルを選ぶ ③調整力：自分のキャラクターと相手に合わせて微調整する ④継続力：常に学び続け、新しいスタイルを取り入れる

====

僕自身、キッズから高校生まで幅広く指導することで大きく成長しました。キッズには遊び要素を多く取り入れ、小学生には技術と楽しさのバランスを、中高生には戦術理解と自立を促す。年齢が変わると、その特徴に合わせて自分の指導を変化させないといけないんです。

最初は「キッズの相手をするのって疲れるな…」って思ってましたが笑、実際やってみるとキッズから学

ぶことがメチャクチャ多いんですよね。純粹さとか、集中力の切り替えとか。

逆に高校生を教えた時は、小学生への説明では全然通用しなくて、より論理的で深い説明が必要だということを感じました。しかも面白いエピソードがあって、僕がスペイン人指導者と一緒に高校生年代を指導している時、選手の中にスペインからの帰国子女がいたんです。僕は通訳兼コーチだったんですけど、その子の方が僕よりもスペイン語が上手で一瞬焦りました笑 でも、そういう経験も必要だなと思います。

====

スペイン人コーチから学んだユーモアと規律のバランス、1年間の褒める指導で理解したやる気の仕組み。これらすべてが今の僕の指導スタイルの基盤になっています。

厳しくするべき時は厳しく、褒めるべき時は心から褒める。このメリハリが効くようになったのは、両方を徹底的に経験したからこそです。今思えば、どちらか一方だけだったら絶対に今の指導はできてなかったと思います。

要するに、いろんなスタイルを試した結果、「状況に応じて使い分ける」という、当たり前だけど一番大切なスキルが身についたんですよね。

====

最終的に大切なのは、学んだスタイルを自分のキャラクターと選手たちの特性に合わせて調整すること。完全にコピーするのではなく、エッセンスを取り入れながら「自分らしさ」を失わない。

そして、一つのスタイルに固執せず、常に新しい学びを求め続ける姿勢を持つことです。指導者って、学び続けないとすぐに古くなっちゃうんですよね。子どもたちは常に変化してるのに、コーチが止まったらダメですから笑

====

今日のアクション

・これまで学んだ指導法を「年代別」「状況別」で整理してみる ・自分が普段指導していない年代のスクールや練習を見学する ・短期間でも違うカテゴリーの指導に携わる機会を作る

====

ここまで 4 回にわたって「自分らしい指導の軸づくり」について解説しました。真似から始まり、本質を見抜き、実践検証を重ね、最終的に自分のスタイルを確立する。このプロセスこそが、迷いのない指導者への道筋です。

正直、時間はかかります。僕も今の指導スタイルができるまで、かなり遠回りしました笑 でも、その遠回りがあったからこそ、今があるんだと思います。

皆さんも焦らずに、一つ一つのステップを大切にしてください。きっと素晴らしい「自分らしい指導スタイル」が見つかりますよ。

次回からは新しいテーマでお届けします。

P.S. 指導者としての成長に終わりはありません。常に学び続ける姿勢を大切にしてくださいね。

それでは、今回も最後まで読んでいただきありがとうございました！

ジュニアサッカー大学 カズ